

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600103		
法人名	株式会社 実喜		
事業所名	京塚温泉グループホーム 笑みの里 暖輪		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町入山3257		
自己評価作成日	平成27年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成27年9月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

京塚温泉の源泉をひいており、常に温泉に入浴でき身体も心も和らぎます。自然も豊かであり、春先には山菜が庭先になるので散歩の道中採り天ぷらにしたりして提供しています。また地域の協力病院と連携し、月に一回の受診・必要に応じた医療を受けることができます。そして入居者様一人一人にあった介護が提供できるように、スタッフ一同連携・相談をし入居者様の状態を把握するように心がけています。入居者さまが地域の一員である事を忘れないよう、今後も、納涼祭・地区合同文化祭に参加いたします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

温泉かけ流しのお風呂が毎日準備されており、声を掛け利用者本人の希望や選択での入浴支援が行われている。敷地内には地域住民が利用できる共同風呂もあり、地域住民との交流の場になりつつある。また、自然環境を活かした庭には菜園があり、季節の野菜を育て、草むしり、水やり、収穫までを利用者と一緒に等、馴染みの作業や出来ることへの支援が日常的にされている。収穫した野菜は食卓にあがり、会話が弾むこともある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「その人らしい生活ができる介護」を理念とし入居者様への介護・日々の業務の検討が必要な時は管理者・スタッフで理念に沿っているか、現状が入居者様に一番いい介護を提供しています。	理念は運営者と管理者が考え掲示している。今後はスタッフ会議で繰り返し共有していきたいと考えている。最近の利用者とスタッフに笑顔が出てきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中に近所の皆様が話しかけてくださったり、慰問受け入れを通し地域の方が歌を披露して下さったり暖かく交流してもらっています。地域の活動に参加します。	地区の行事に参加している。民生委員からの慰問の紹介を受け好評である。今後はこども園や小中学校の文化祭に出展したり、地域に出かける考えを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご参加頂いている皆さまや面会時のご家族様に、入居者様の言動に対しての合った対応や言葉かけの方法を説明し、入居者様の気持ちを理解して頂くよう心懸けています。来年度から中学生の職場体験を受け入れます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、委員の皆様にご意見・ご感想を頂き、介護・サービスの向上に努めています。	定期的開催され、児童民生委員・家族代表・行政が出席し、入居者状況や行事報告を行い意見交換がされている。会議時に災害訓練を行い訓練に参加してもらった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的施設入居状況報告又、相談についても行い関わりを持って協力関係を築くよう努めています又、六合支所地域包括支援センターにも同様にしています。	運営者が行政に出向き事業所の状況等を報告して連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、群馬県社会福祉協議会等の研修に参加し、職員で理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいます。	玄関は自動ドアで暗証番号を入力して開錠する仕組みである。一部の利用者と家族には暗証番号を教えている。外に出たい利用者とは職員と一緒に出ている。身体拘束に関する研修は参加者が職員に報告している。	暗証番号を入力できない利用者もいるため、だれもが自由に外に出る事は出来ない。入居者のその日の状況によっては、開錠する時間を徐々に作って自由な暮らしを支援してほしい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルに沿って勉強会を実施し、職員全員で理解し虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後必要になってくる際は、関連施設や町の担当者と協力し支援していきたいとおもっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約者様に契約書他内容を十分に説明し理解していただいたうえで契約を結んでいます。解約の際もご家族と話し合ったうえで、解約しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情申し立ての説明を行い施設内に苦情窓口を掲示してある旨を伝えています。入居者様には日々のかかわり、声掛けなどで要望をきいております。ご家族様には面会時に積極的に話かけるよう心がけています。	管理者から日常の様子を報告し「何でも言ってください」と家族に話している。家族宅を訪問し通院内容を報告することもある。職員と家族の交換日記で思いを聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りなどで情報を共有しています。月一回会議の場を設けて管理者を含めみんなで話し合い、早めの対応に心がけています。	状態把握シートに利用者状況を記録して共有し、そこから意見も出ている。会議はスタッフが意見を言い合える環境である。休暇はスタッフ同士融通し合って休んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握し意見を聞き向上心を持って働ける環境をつくり、その上で職員の実績を評価しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修等に参加することで個々での知識・技術の向上はかり、実践につながるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡協議会の集会・会議に参加をし交流を図り、その中での情報を活用、質の向上の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	スタッフ一同入居前の生活情報を確認して、慣れるまでその方の表情や言動に気を配っています。また、入居者さまの不安などを解消するよう声掛け、状況に応じて会話を合わせ、スタッフが返答した返事をスタッフ間で統一するよう心掛けています。(入居者様の混乱を防ぐため)		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の生活情報を確認し、ご家族が入居者さまにどのような生活を望んでいるか、またどんなことに困っているか、いたか伺います。入居後もご家族からの意見・不安などあれば、その都度対応し、安心して生活が出来る様努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の体調等を日々確認しながら希望に沿ったより良いサービス・必要なサービスにつながるよう対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様一人ひとり出来る事、できない事が違うため状態を常に把握して一緒に畑仕事や洗濯等を行ってもらう事で私たちも支えてもらっております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、面会時やケアプラン送付時に近況をお伝えしてご家族との信頼関係を築くよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様となじみのある方の訪問時は、ゆっくりとお話出来る場所の提供(居室等)をしてゆっくりと会話を楽しんでいただけるよう心掛けています。	囲碁を楽しんだり縫物をしたり趣味の継続に力を入れている。携帯電話を使用したり、外泊したり友人や親せきが訪ねて来ている。利用者にとって第二の家になれるよう努力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を考慮し円滑に1日が進むよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設を退居の際、ご家族にいつでも相談しやすい様な声掛けをしています。また相談があった際は傾聴しフォローしていくよう努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望や意向について、話しやすい会話に努め、ご家族様の面会時にもご家族様の要望を聞き、安心して生活して頂けるよう支援しています。	ケアマネジャーが出勤時に会話や記録等通して意向確認を行っている。家族からは、面会時や電話及び独自に作成されている「要望確認票」を基に希望等確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様の生活歴を参考に職員間で情報を共有し、その人らしい生活が見い出せるよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録や状態把握表を見直し心身状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と話し合い、意見や要望をもとに、ご本人にとってよりよい介護計画を作成するよう心掛けています。	毎月の会議時にモニタリングを実施している。定期的には3か月毎にサービス担当者会議を行い、退院時や状態変化時には随時介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の様子を記録に残し、職員間で個々の情報共有の徹底をし、また適宜モニタリング、カンファレンスを行い情報を共有し介護計画の見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等から生まれる様々なニーズになるべく沿えるよう柔軟なサービス提供を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人ご家族、地域の方からの情報をもとに、地域資源を活用し安全で豊かに暮らしを楽しめるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の要望を聞きご本人、ご家族様の希望される医療機関の医療が適切に受けられるよう支援しています。	入居時にかかりつけ医の継続か事業所の協力医に変更できることを説明し選択ができる。月に1度協力医の往診がある。受診は職員が支援している。必要時には歯科受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に日常生活での変化、異常時での状態を伝え適切な受診が受けられよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常生活の基本情報を伝達し、定期的に面会を行い、その際担当者等と情報交換や相談をおこなっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化になった時等はご家族、ご本人、主治医、事業所で今後起こりうる状態等話し合い適切な援助につながるよう努めます。	本人や家族等からの希望が出れば医師や家族等の協力の下に事業所としては看取り支援を実践するつもりである。個別で話し合いが行われている。終末期に向けた研修が行われている。	現在は個別で話し合いがもたれているが、事業所としての終末期に関する指針を早めに作成し、家族等の希望に対応してほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルをスタッフ間で共有しており、救急車要請の手順を作成し、いつでも見られ誰でも対応できるよう提示があります。入居者様も参加し防災訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防火避難総合訓練を消防士立会のもとに行い、又近隣の区民の方にも災害時の協力依頼をし、避難所も13区公民館を使用できるようお願いをしています。	27年10月に消防署立ち会いによる避難・消火・誘導訓練が予定されている。備蓄は検討中である。	利用者と職員がいざという時に慌てないように自主訓練を行い、避難技術を身に付けてほしい。地域特有の災害を想定した訓練や備蓄の用意もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人一人の人間性を尊重し、言葉かけなども配慮したり、個別に時間を設けたりと心掛けています。また、目線を合わせ安心感をもっていただけるよう支援を行っています。	男性利用者が5名おり、同性介助を基本とし異性の場合はお伺いをしている。自室で食事が摂れる。衣服は自分で選択する人もいる。利用者同士の相性に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々生活する中で、入居者様が思いや希望を言いやすい様な環境をスタッフで創るよう心懸けてます。また入居者様を理解して、自己決定できるような声掛けをしながらおこなっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	当施設は、入居者様一人ひとりの一日の過ごし方に寄り添えるよう、本人の希望に沿って過ごせるよう支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族と連絡をとり面会時に季節に合った衣類を持って来てもらうようにしています。また、髪の毛については、希望時に出張の美容師さんをお呼びカットしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々観祭・見守りをおこない、食事になるべく自身で摂取できるように、おにぎり食にしたり、食事の形態をその都度確認しまた用具の変更なども行っています。またスタッフが一人検食も兼ねて一緒に摂取しています。	献立が決められ食材が届き、職員が作っている。献立はキャンセルできる。パン屋の販売車、お弁当を持参しての外出、家族と出かけ飲料の買い置きや菜園で作った野菜が食卓にあがる。利用者にはお茶入れ等を手伝ってもらっている。	献立を家族に知らせてほしい。飲み物のメニューを作り利用者の選択の機会にはいかかが。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を把握するようチェック表を使用しています。また食事摂取が難しい方には高カロリーのゼリー等で工夫をし食べていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個別に口腔ケアを行い、なるべく自分で行ってもらい、出来ないところは介助にてして磨き残しがないようにして口腔内の清潔保持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人にあった排泄方法で行えるよう介助しています。また、オムツの方にも声掛けを行いトイレ誘導をトイレにて自立排泄を行えるよう援助しています	トイレでの排泄を支援している。おむつやパット、リハビリパンツ等、適切な排泄用品を使用し、快適で自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便・排尿表を用いて日々の回数を確認しており便秘にならないよう対策の検討も行い、水分補給等を心掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当施設は入浴表は作成せず、声掛けを行い希望時に入浴できるようにしています。入浴したことを忘れてしまい入りたいという方は二回入る日もあります。	源泉かけ流しの温泉が特徴である。入りたい時に入れる支援をしている。入浴を希望されない方には清拭で清潔を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠時の着るもの、掛物は家で使用していたものを持ってきてもらったり、また空間の配慮としても棚など慣れ親しんだものを持ち込めるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ一同、薬剤情報がみられるようにしており、変更があった場合は申し送りにて伝えるのと、別紙を用いて必ず把握するように努めていますが暗記するまでには至ってないので確認あって支援しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや、洗濯、畑仕事趣味の散歩など昔やってきたことを一緒に行ってもらい気分転換になるよう援助しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	施設周辺への散歩はなるべく希望時にいくようにしています(スタッフの人数により対応できない時間帯有)。また近隣の施設への外出等は気分転換ができるようになるべく月に一回機会を設けています。年間行事の外出も自然豊かなのどかさを実感していただいています。	散歩や畑の草むしり等で日常的に外に出ている。個別で声を掛けながら、季節の花見や馴染みの景色を見にドライブに出かけている。家族と外食や買い物等で出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時・訪問パン販売の時などはスタッフ見守りのもと会計をして頂き、大切なものなので金銭管理できない利用者様は施設でお預かりさせて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時はスタッフ代行しかけています。なかには、家族への依存が激しく何度も要求があり電話が掛けられない方もいますが、スタッフの携帯電話にかけ呼び出し音をきくことで安心を得てもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は天窓から自然光を取り入れ明るく広い空間、壁面には、共同制作及び個人作成作品を飾り、観葉植物、散歩のときに摘んできたきた花など飾り季節感を感じていただき利用者様にとって居心地の良い空間作りに努めています。	レクリエーションで体操をしたり、ボランティアが来訪する共用空間は広く不快な臭いはしない。ホールは大きな窓から天候や季節を味わう事が出来る。テーブルとイス、季節の花やテレビが置かれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間であるホールは、入居者さん同士の相性なども考慮し席を決めています。また、時間帯によりテレビの音を調整したり、季節により壁の絵を変え季節感を感じられるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力して頂いて、なるべく自宅で使っていた布団、棚など持って来てもらい安心して過ごせるようにしています。	箆箆やテレビが置かれ、使い慣れた布団がたたまれている。不快な臭いはなく、手作りが飾られている等、心地良い環境づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の入居者様の言動から入居者様を理解し、出来る事などを見極めて介護に介入し、自力にて行えることは時間をかけてでもなるべく行ってもらうようにしています。		